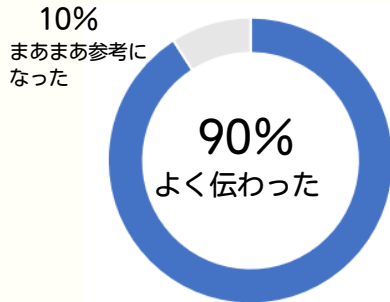




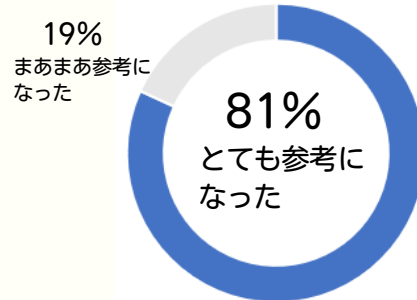
中学部授業研究会オンデマンド参加者から

11月下旬に行われた中学部全校授業研究会のオンデマンド配信を行いました。オンデマンド配信は参加がしやすいこともあり、県内外から20名近くの参加者がありました。今回は、オンデマンド配信に参加された方からのアンケート結果をお伝えします。

オンデマンド配信で授業内容が伝わりましたか？



研究授業は参考になるところがありましたか？



オンデマンド配信参加者からの声

【授業の感想、もっとこうしたらよい等の改善点について】

- 生徒がとても集中して取り組んでいたこと、また、授業者の先生のテンポの良い授業、よく通る声、生徒との関わり方、板書の仕方、掲示物等、とても参考になりました。
- 未来へのスケッチを活用し、生活単元学習や日常生活での良い場面を貯めていくことで、自分の良さにも気づき、自己理解を高めていけるとよいと思いました。本校でも進路学習として職業・家庭科を参考にした学習内容を取りあげていますが、中心単元との関連、実態に応じて何をどのように学ぶかについて難しさを感じています。
- 単元計画をしっかりと立てて、長期にわたり学習を積み重ねているように感じました。
- 個々の目標を考えるに当たって、タブレット内にヒントとなるこれまでの学習の履歴が蓄積されていて、生徒が自分で考える手立てが大変工夫されていました。
- 蓄積された履歴が中学部の学びとなり高等部へつながっていくことで、担任が変わっても途切れない進路学習、進路指導につながるよいツールになっていくのではと感じました。
- 個人に合わせた動画やプリント等の準備がとても丁寧なされていて、生徒たちが今日の「めあて」に取り組みやすい環境が整えられていると感じました。

- △自分のできていないところだけでなく、できているところにも目が向くようないかなければ必要だなと思いました。
- △授業時間があと少し残っていたようですので、生徒が考えた目標を、全員分、黒板に掲示できたらと感じました。
- △本時は、単元のまとめとなる部分で提示授業としては難しかったと思う。その中で、これまでの学習の履歴を個々で振り返りながら、自分にあった今後の目標を探っていたと感じる。
- △生徒の実態として、本時の学習活動が難しい生徒もいたかと思う。また、机上での学習が中心であったため、知的障害の生徒には学びが実感できない生徒もいたように思う。生徒一人一人が主体的に活動に向かい、自分事となるためにもペアやグループでの活動を混ぜたり、話し合いや学び合いの機会を設定したりすることで、より実感をもった個々の目標設定に落とし込めた生徒もいたのではないかと思います。
- △授業の流れから生徒たちは理解できているのかもしれませんが、めあてに立ち返り、「すてきな高等部生になるため」の目標であることが、再度押さえられればよいなと思いました。
- △めあてと目標の違いを、生徒たちはどのように押さえられているのでしょうか。高等部を見学したときの記憶が薄れてしまっている生徒がいるように見受けられました。
- △生徒が混乱してしまうかもしれないのですが、「自分の目標について友達に意見をもらう」「友達の目標を聞いてどうだったか考える」等の活動も設定できると学び合いにつながるのではないかと思います。

【オンデマンド配信について】

- いくつかの視点で授業を見ることができたり、補足資料や生徒の書いたプリントを動画の途中に入れたりした工夫があったことで、授業をリアルタイムで見ているかのように参観することができました。
- 全体や生徒の様子に加えて、別画面で作成物やプリントをリアルタイムに出していただき大変見やすかった。
- 2方向から授業を映したり、生徒のワークシートを映したりと、とても工夫されていて、参考になりました。
- 授業だけでなく、研究だよりで協議の内容や助言がまとめられており参考になった。
- 授業の配信では、教師目線、生徒目線の動画と、ワークシートやタブレット内での動画なども紹介されており、リアルタイムで参観するより、見やすく分かりやすかった。
- 研究授業の動画配信だけでなく、貴校の研究や研究説明、指導案、デザインシートなど、活用した資料をデータで見せていただけたことで、取組がよく理解できました。

